

(翻訳：凜峰／校正：祀夜)

ねえ、ひとり？じゃ、隣りに座ってもいい？

このバーはね、他の席はほとんど仮装舞踏会を目当ての恋人なのよ、カウンター席ですら人だらけ

せつがく酒を注文したのに、そのせいで、落ち着く味わいしたいでもできないのよ

だから、良ければ、ここに座らせて頂戴

うふふ、ありがとうね。あなた、優しいね

今日は連休の初日でしょ、みんな仮装舞踏会を夢中なのに、あなたどうしてひとり酒満喫してるの？

ふーん、なるほど……仕事明けの上、さらにの独身、肩身が狭いを感じるだから気楽になれない……か

じゃあ……うふふ

どうしょうか！私から少し話して、あなたも肩の力を抜ける、ついでにパーティーの雰囲気も楽しめる、どう？

聞きたくない、興味ないって？

どうせ休みだし、ここであつとしたい、そして帰ったのあと、休日丸ごとはウチに寝だめ？

それ、もったいなくない？

休日だからこそ、ありのままの自分で、彼らみたいにバカ騒ぎするじゃない？

(独り言) なんなの、この人間？悟りすぎじゃない

(独り言) しかも、女性自らから話しかけるにも関わらず、全然聞きたくない
って？

コホン……ほら、これやるよ。

こ・れ・は・ね！

さっきここに来る途中、菓子屋のマスコットの着ぐるみの店員からのよ

私の実家でね、甘いものは人を幸せになるの魔法を持ってるの伝説があるの
よ！

だから、これあげる。少しでも楽しくなれるように。

ん？まだ取らないの？

じゃ、私が食べさせてあげる？うふふ。

(啜えながら) はら、あーん

うふふ、そうそう。たとえどうなことあっても、休みの日はね、楽しめないと！

どうだ？魔力含めての飴、抑えられた体と心は気楽にした？

さ、目を閉じなさい。力を抜いて、そして私の体に横になって、私の息をよく
聞いて、さ～

吸うって～～～～吐いて～～～～

お腹の力を抜いて、呼吸に合わせて動いて。

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

今のあなたは服と布もなにも感じられない。リラックスして、なんの縛りもない。

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

うふふ、よーし。次、今からあなたの手と足も、だんだん柔らかくなれるように。

完全にリラックスしたの感じはどう？

ふわふわして、まるで雲の上にいるな感じでしょ

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

よーし。いまから私の言うことをよく聞いてね、うふふ～

あなたの意識はどんどん消えている、五感は私が操られている。

吸うって~~~~~吐いて~~~~~

よし、なら私と一緒に、私の世界へいこう。

さあ、私が導いてあげるわ

10 体がふわふわに、何の重さもない、空に浮いてるみたい。

9 身の周りは涼し空気が流れているような感じ。心配はいらない、これは魔力よ。

8 魔力は私の指先から、あなたの胸、肩、腕、首、頭へ流れていく。

7 それからお腹、腰、両足、足の裏。あなたは今、全身が魔力に包み込んでいるわよ。

6 思い込んで深呼吸をして、そう～流れているの魔力、いまあなたの体に入っていく、鼻から、肺へ。

5 魔力は血液に乗せて、体の隅々まで届け行く、全身が魔力に満ちている。

4 段々体が魔力を馴染んでる。普通の人間にとって、ひんやりして気持ちいいでしょう。

3 体が段々敏感になる。これは普通だよ、安心して。

2 そして今、あなたが少しずつ、ゆっくりと、ソファに下ろされるみたいな感じ。

1 ちょっと寒い？じゃ、私が周りにを温めてあげるわ。

0 ようこそ、わたしの世界へ。

=====

シリズ：ようこそいらしゃい。あら、そんなに慌てて目を開かなくていいよ。

シリズ：平気よ、あなたを食べたりはしないから。改めて、私はサキュバスのシリズよ。

シリズ：そして、今あなたがいるここは、私の世界と、私の家。

シリズ：ん？ハナの香りがするって？

シリズ：（囁き）それは私の匂いよ、うふふ。

シリズ：それと、ここはね、男性は裸以外禁止よ。だからあなた今は何も着てないよ。

シリズ：あなたの体の隅々まで、私にきちんと鑑賞させないといけないのよ！

シリズ：うふふ、恥ずかしいか？あら、なんでここはまだふにゃふにゃなの？

シリズ：そうね、じゃ、よく感じてね？私が指が、あなたの体を撫で回しして

シリズ：そっと、ゆっくりて、あなたのここに這い寄せで……

シリズ：んふふ、ゾクゾクしてるわね？こんなに硬くなっちゃって！

シリズ：（囁き）さて、いよいよ私のを感じさせてあげるわ。腰を下ろすわよ！

シリズ：（囁き）今、あなたのおちんちんと私のあそこ、ピッタリと密着してるわね！

シリズ：ん……でも、今のおちんちん、太さ、熱さと長さどっちも足りないわ。

シリズ：これで私を満足させるつもり？あなたももっとしたいでしょう

シリズ：今のあなたが、私だけを見て、私を見て……私を見て……

シリズ：私たちは今、顔が近いに、すっごく近い……

シリズ：ピンクの長い髪が、あなたの体に垂れてるわね。いい匂い？それともくすぐったい？んふふ。

シリズ：そして色白のおっぱいが、目の前にいるよ！

シリズ：胸元はね、へそまで開いてるのよ、んふふ。

シリズ：ドレスの横も、スリットは胸当たりまで開いてるの、太ももと横乳も見えてるでしょう？

シリズ：足は黒ストッキングとハイヒール。どう？男としては最高のシチュエーションでしょう？

シリズ：（囁き）そして、ドレスの中はね、何も着てないのよ！

シリズ：実はね、サキュバスの私たちはね、普段あんまり服が着ないの、着るものがすべて魔法で作ったの。

シリズ：（囁き）男にとって、全裸よりエロい服はずっと魅力的、でしょう？うふふ！

シリズ：私の姿を見たから、これから私があなたの手を導く、この誘惑の体を感じさせてあげるわ！

シリズ：ん～？手がぽかぽかして？んふふ、そりゃ当然よ！我々サキュバスは情熱で、暖かい悪魔だからな！

シリズ：それじゃいくわよ。まずはここ、私の腰。柔らかくて、引き締めとは言えないけど、むにゅむにゅで気持ちいいでしょう、うふふ。

シリズ：下に触り続けると、ここは私の太ももとお尻、触り心地がいいわね？

我々サキュバスよりいい体の人間の女性はいないよ。

シリズ：じゃ、次は……

シリズ：ここは……あん！胸に触ったばかりなのに、手がすく大人しくしてないじゃない

シリズ：まあ、男だもんね。大きくて、柔らかなおっぱいを触るとかなり興奮してるでしょう。

シリズ：服の上といっても、触り心地もいいでしょう。

シリズ：そんな急いししないでよ、あなたったら。おっぱいを触ったら手がずっと揉んでるし、乳首もちゃっかり弄っているじゃない。ふふふ！

シリズ：上までつづくのよ、ほらほら！ここ！私の首よ。

シリズ：そしてここは私の顔、ふふふ、頬が手のひらの温もりを感じてる、暖かくて、気持ちいい。

シリズ：最後はここ、優しくしてね、ここはサキュバスが最も敏感なところなのよ。さ、試してみて、ここはね……私の角よ。

シリズ：角の形と模様を心こめて感じてね、普通ならサキュバスは他の人にこの場所に触らせないのよ。あなたこそ、私が親切に……あっ……あっ……

あっ、角は優しく触りなさいよ、そんなに擦ると、私……あっ……あっ、待って、待ちなさい！

シリズ：この私に失態を、まったく……！今から手は背中に置いているだけ！

大人しくそこに寝なさい！

シリズ：ふう……よし。ゴホン。言う事聞かない子は、おしおきよ！まずは…

…

シリズ：んふふ、サキュバスの唾液がすっかりに味わったね、どんな感じ？この魔性の甘美は、誰でも抵抗できないのよ。

シリズ：次はここ、あなたの乳首。

シリズ：自分の乳首がこんなに敏感なんて、思わないでしょう？うふふ、唾液に濡れた乳首、私が指で円を描いたら、どんな気持ち？そして、こうする。

シリズ：ふふふ、いま私のおしりに当ててるのものが大きく膨らんで、熱くなったね、びくびく震えるのも感じる。

シリズ：あなたのケダモノちゃんの束縛を解きたいのかな？

シリズ：頷くだけじゃ、誠意を感じないわよ！ちゃんと興奮する表情を私に見せてよ、刺激足りないのかな？

シリズ：あなたったら、顔が赤いよ。それに息も荒いね。男のくせに、サキュバスに吸われて、乳首が立ってきたじゃない。

シリズ：このテレ顔、いいね、うふふ。

シリズ：あら、どうした？あなたのお・ちん・ちん、もうこんなに熱くなったね？

シリズ：（囁き）腰がうねうねして、もしかして私のこ・こ、入りたい？

シリズ：ダメよ、私もめちゃくちや濡れたけど……ほら、おちんちんが当ててたの場所は、私たちの汁が大変になったね。

シリズ：さきっぽから溢れた透明の汁と私の愛液が混ざってるわ！

シリズ：もう我慢できないの？でもね……あなたはうちのメイドへのプレゼントなの。彼女はここに来てからもうすぐ一年よ。そして、あなたは私から彼女にあげるの「飴」よ、その体で捧げなさい。うふふ。

シリズ：ん？どうしたの？どうしておちんちんが柔らかくなってしまうの？

ん？食べられる？

シリズ：ぷっ！あはははははは、コホコホコホ、ごめんごめん。あなた考えすぎじゃない？殺すも食べるもしないから、安心しなさい！

シリズ：私たちはただ、あなたを気持ちよくなるだけよ。とっても気持ちよく、ね。んふふ。

シリズ：捧げると言ったから、あなたをびっくりさせたかもね。お詫びに、彼女がまだ帰っていないのうちに、こっそりと……

シリズ：気持ちいい？サキュバスの手もなかなかでしょう？ほら、ちんぽまた勃ってきた、さすが私が気に入った男だね。

シリズ：まだまだ我慢できるよね？じゃあ私こっそりと……あーん。

シリズ：（咄えながら）サキュバスの唾液はね、体のところでも、少し発情の効果があるのよ。

シリズ：あら、おちんちんをびくびくして、辛い顔しちゃって、もしかしてもう出したい？

シリズ：ちょっと遊びすぎみたいね。んふふ、でも、まだダメよ。おちんちんを硬いままにしないと。まだ出しちゃダメ。

シリズ：とりあえず気が緩めて、深呼吸しよね！

シリズ：吸って〜〜〜〜吐いて〜〜〜〜

シリズ：吸って〜〜〜〜吐いて〜〜〜〜

シリズ：ちょっと落ち着いた？んふふ、よし。でもおちんちんは……まだ敏感のままでしょう？

シリズ：ふふふ、はははっ、あなたのその表情、本当に可愛いね！

ルル：シリズ様、ただいま戻りました……

ルル：キャキャーアアア！

ルル：ど、どうして男が家に！？しかも服着てない、あ、あ、あれを丸出し……！
変態だ！

シリズ：あら、おかえり。ルル、おいて、ほら、顔を隠さないでよ。さ、こっちに。

ルル：あ、あたし……その……

ルル：シリズ様、これはということですか、ううう……

シリズ：これはあなたへのプレゼントだよ。人間界の路傍で朦朧して、漂っているあなたに出会えてから、もう一年になった。

ルル：それは分かりますが、でもあたし……

シリズ：こちの世界に連れ帰って、メイドを務めさせてから、この一年間ちゃんと休んだことはないでしょう？

シリズ：今日はあなたが休む、気持ちいいことするよ。

ルル：あ、あたし……

シリズ：だから、この特別の日に、私は人間界からいい男を連れてきたのよ。

シリズ：こいつを見て？大人しいし、おちんちんも大きくて敏感のよ！

ルル：シリズ様、あたし……

シリズ：彼女はうちのメイド、ルルだよ。メイドとして、礼儀は守らないと。

ルル：こ、こんにちは……ル、ルル、です。

シリズ：ルルは幽霊だよ。この魔法ありの世界こそ、彼女が人間姿を持てることができる。

シリズ：でも足音がないから、スカートに小さな鈴をつけた。でないと毎回ひらりと背後に現れるからね。

シリズ：可愛いでしょう！幽霊メイドはこっちの世界でもレアなんだよ！

ルル：も、もう、いいんでしょう！シリズ様……

シリズ：だってこの男は私が誘ったのお客さんだからね、あなたのことを知らせなきゃ。

ルル：はい……

シリズ：ルルもそんなに離れないでよ、こっちにおいて。

ルル：はい……

ルル：ど、どうして……は、はっはっ……

シリズ：んふふ、ルルの頬も赤くなってきた、どうやら私の唾液は幽霊にも効くみたい。

ルル：シリズ……さ、ま……

シリズ：どうだ？少し感じちゃった？こうするともっと反応するかな？

ルル：シリズ様、やめてください……揉まないてください……うう……

シリズ：んふふ、ね、あなた。うちのルルがこう見えても、着痩せするタイプだからね。

シリズ：シャツを着ていても、ちょっと持ち上げるだけで、ムネの形がよく見えるでしょう！

ルル：あんっ！

シリズ：こんなに魅惑的な形、サキュバスの私としてもちょっと羨ましいくらい。

ルル：これは、シリズ様……この男はまだ見ています……

シリズ：わざと見せるんから、ルルのこの美しい胸。あなたも……もっと見たい？

シリズ：いい返事だ。じゃ、こんなあなたに、うちのルルもサービスしないと！

ルル：キャー！あたしのブラ！パンツまで……シリズ様、こんなの恥ずかしいから、服を返してください……ううう！

シリズ：まだ恥ずかしいって思うのか！ルルは魔力に満ちた世界が慣れているから、唾液だけじゃちょっと効果が薄いみたい。どうやら尻尾も使わなきゃね！

シリズ：サキュバスの尻尾を咥えたら、どんな生き物でも発情するのよ。んふふ～

ルル：ん……ん……はあ……

シリズ：よし。さ、ルル、今すぐ私が用意したプレゼントに座って。

ルル：はい、シ、リズ……様。やっ！こ、これ、あ、熱い！

シリズ：それはもちろんさ。このおちんちんはこのまま膨らんでいて、ルルのことをずっと待ってるんだよ！

ルル：お……おちんちんが、暖かくして、気持ちいいです。

シリズ：んふふ、どうやらもう効くみたい。こら、あなた！いつまでうちのルルを見つめるなよ、ここは何かするべきでしょう？

シリズ：ん？ここまで来たら、まだ分からないの？じゃ、先に手本を示してあげるね。

シリズ：あーん～

ルル：あっ！あっ！シ、リズ、さま……

シリズ：見て、ルルのピンクの乳首、服の下から透けるよね。しかもエロっぽくて立っててる、気持ちいいよね？あなたはそっち側に任せるわ、一緒に、あーん。

ルル：まで……あんっ！

シリズ：服越しでもこんなに感じちゃうの？なら、今からシャツを……

ルル：あ、あたしのムネが……全部……

シリズ：見て、ルル。あなたの白くてエロイおっぱいが、今この男に全部見せられたよ。乳首も吸われて立っちゃったわね。

ルル：あんっ……やめて、くだ、さい、もう吸わないで……

ルル：な、何が漏れます……この感じはなに……あっ……あっ……うう……

シリズ：慌てないで、ルル。これはあなたが既に感じてのよ。んふふ、どうやら準備ができたみたい。

シリズ：でも、スカートはちょっと邪魔だし、あなたもルルの興奮してるおまんこを見たいでしょう？んふふ。

ルル：スカートも……ううう……アソコも全部見られちゃいました……

シリズ：今からこの大きくて熱いのおちんちんが、うちのルルのおまんこに入るわよ。

ルル：えっ？お、おまんこに……入れるんですか？

シリズ：もちろんわ、それこそが本物のプレゼントだからね。とっても気持ちいいからよ。

シリズ：安心してね、ルルの体温はちょっと低いけど、気持ちいいのは変わらないから。

シリズ：さ、ルル、お尻と体も少し上げて。

ルル：シリズ様……あ、あたし、起きられないです……

シリズ：どうやらまた魔法の出番だね、んふふ。

ルル：キャッ！？

ルル：今このおちんちんはルルのおまんこに当ててるわ。今からゆっくりと、ルルの体を降ろすわよ。

ルル：あっ、ああ……熱い、大きい。ルルの……アソコが、広げられちゃいます……

シリズ：ルルのおまんこがおちんちんを全部食べちゃったわね、んふふ。これはうちのルルの初めてのよ……まだちょっと恥ずかしいから、動けないみたい。

シリズ：だからここはあなたからしてあげて、まずはゆっくりから始めよう！

ルル：ど、どうして動くんですか？はっ、はっ、はっ、あたし……

シリズ：気持ちいい？ルル、この周年のプレゼントは素晴らしいでしょう？

ルル：き、気持ちいい……です。シリズ、様の……プレゼント、とっても素敵です……ん、あっ……

シリズ：それはもちろん。ん？なにぼーっと見ているのよ？私はただあなたの手を後ろに封じただけ、口は自由でしょう？

ルル：あ、熱い……とろけそう……ん、ん、あっ、ああ……

シリズ：いつまでうちのルルがこんな恥ずかしい声を出すつもりか？

ルル：ん……あっ……うう！

シリズ：んふふ、そうそう、もっと積極的に！でないとうちのルルが喜ばないじゃない！

ルル：男の舌で、こんなに熱くて、柔らかいなんて……しかも、おちんちんはこんな硬く……あたし、本当に溶けちゃいますう！

シリズ：試したらなかなかでしょう？ルル。

シリズ：さ、今はこの男の体に乗きなさい！

ルル：は、はい……えっ？何が、おちんちんが……もっと熱く、大きくなったんですか？

ルル：お、お待ちください……乳首を吸わないで……

ルル：舌で弄るのもやめてください、うう……き、気持ちいい……

シリズ：どうやらルルの柔らかなおっぱいが気に入ったみたいね！彼女は今シャツ開けたままあなたの胸に乗っている。そして髪の淡い香りもする、更に興奮したのか？

シリズ：んふふ、すべて顔に書いてあるよ。よし、ルル、もっと気持ちよくなりたくないか？

ルル：はい……なりたいです、シリズ様の言うこと、全部欲しいです……

シリズ：じゃ、今から伏せたのままだに、この男の首を抱いて。まず私は尻尾を使って……

ルル：シリズ様、そ、そこは……ダメ、そこはダメです！

シリズ：おや？どうして？

ルル：そこは、汚いですから、そこは……あの……

シリズ：んふふ、あなたはすでに幽霊になったから、汚くないよ。

シリズ：んふふ、どうやら私の尻尾の発情効果は、あなたの後ろのハナを感じさせちゃたわね！

ルル：シリズ様、も、もう言わないでください。恥ずかしいですから……すごく、恥ずかしいです……

シリズ：知ってるわ、ここのハナが開いたり閉めたりして、ルルは敏感で、恥ずかしいというのが分かるよ！

ルル：あ、あたしのこと……言わないで……

シリズ：それじゃ、私の尻尾入れるわよ。ルル後ろのハナの初めては、私が頂くわ！

シリズ：尻尾は太くなるよ、ルル。

ルル：シリズ様、い、意地悪です！あっ！あっ！ハナとまんこも広げられて、いっぱいいっぱいになって、な、何かが溢れちゃいます、あん……あっ……はっ……はっ……

シリズ：口はダメダメばかりで、ハナはずっと締め続ける、私の尻尾を吞んだり、吐いたりするわよ。

ルル：それは、シリズ様の尻尾が……気持ちいいですから。恥ずかしいところ……なのに、シリズ様に……見られるだけで……すごく興奮ちゃいます。

シリズ：ルルのハナも汁がいっぱい出てるわね、ちょっと味見させて。

ルル：シリズ様、ダメです……やめて、ください……そこは汚い……

シリズ：そんなことないよ、いまハナから溢れだしたのは、ルルのエロい汁だから、ちっとも汚くない。

ルル：ルルのが……シリズ様に……ううう……恥ずかしい……

シリズ：あらあら！ルルに気持ちよくするが夢中に、頑張りに動いているあなたのことを忘れたわ！

シリズ：うちのルルの最も淫らな姿を見せたから、あなたもやけに興奮するよね？

ルル：どうして、あなたのアレが……ルルの中に、びくびくして……

ルル：あっ……んん……あたしは、人間のおちんちんに……こんなに……なんて……

シリズ：またいっちゃう？ルル。

シリズ：それじゃ、一緒にスピードを上げて、ルルをもう一度いかせて、んふふ。

ルル：あっ、あっ、あっ……あっ……あっ……そんな、おまんこ尻の穴がこの男とシリズ様に……うう……い、いっちゃいます、あ、あたし……はっ……はっ……

シリズ：ルルは興奮して、喋り方がいやらしくなったね。こんな淫乱なルル、私も初めて見たわ、可愛い。

ルル：ルルはいやらしくないですう。こ、これは……シリズ様のせい……です……はっ、はっ…….

シリズ：ルルはそろそろ耐えられないみたいね、じゃ……一緒にいかせてあげて。

シリズ：せーのっ！5～4～3～2～1～0！

ルル：ん……ん……あっ……あっ、はっ……ん……

ルル：果てなさい！

ルル：ああー——っ！

ルル：ルルの、おまんこが……人間の……汚くて、臭いの……精液が注ぎ込まれて……いっぱいです。

ルル：尻の穴も……シリズ、様の……太い、尻尾に……挿して続けて、熱くなったんです。

ルル：何かが、ずっと……溢れた感じが、します……はっ……はっ……はっ……

シリズ：まさかルルがいつちゃって失神した時は、透けになるとはね！

シリズ：私もこんなルルを初めて見たわ。精液がルルの中に流れてるが見えるのよ。

シリズ：んふふ、まさかあなたがこんなに出せるとは思わなかった。

シリズ：ルル、あなたの中に流れている精液は、私たちにとって魔力補給するのに最高の一品だよ！

ルル：気持ちいい……味わってみたい……ですが、ルルは……もう、力が入らない……ふう……

シリズ：ふう～どうやらルルの体力はもう限界だね。寝ている様子とっても可愛いわ、そう思わない？んふふ。

シリズ：はい。ご協力ありがとう、後であなたを元の世界に……あつ！

シリズ：あなた……まさか私を押し倒す力がまだあるとは……手錠魔法は？いつから消えたの？

シリズ：しまった、先ほとルルのために尻尾で魔力を使いすぎちゃった、今の私は……ん、ん……ん……

シリズ：あなた……私はサキュバスなのよ？もっとしたいなら付き合うわ……
ちょっと、なぜおちんちんが、また大きく……

シリズ：そんなに欲しいの？ほら！先ルルを溶かしたおちんちんはどのぐらい
凄いのか、私が……うう！

シリズ：な、なぜそんなに急いでるのかな？話を最後まで聞けよ！な！私の足を
掴んで挿入するなんて……うう……

シリズ：もしかしてずっと私の体を求めたい？んふふ！

シリズ：うっ！うっ！うっ！い、いいね、まだ体力があるじゃない、腰が一生
懸命振れている！

シリズ：あっ……あなた、先もこんな風にルルのおっぱいを舐めていたの？

シリズ：舌が軟らかくて、熱くて。乳首の周りに回って、結構積極だね。

シリズ：私の乳首を舐めて、興奮する？おちんちんが私のおまんこの中にびく
びくしてるのを感じるよ？これが先ほとルルが感じてるの気持ちが！

シリズ：へっ？まさか私を抱き上げるの体力がまだ……残ってる……とは……

シリズ：こ、この体勢は……ちょっと、恥ずかしいわね……あっ……あっ……
あっ……

シリズ:ますます力を込めてくるなんて……さてはもう出しそうだな？んふふ
～

シリズ:頭を寄ってくるって、キスしたいのか？いいわよ！

シリズ:よ、よくも私の角を舐めるなんて……！こ、ここはサキュバス……も、
最も敏感な……うう……

シリズ:あ、あなた……隅々まで……舐め尽きる必要ある？

シリズ:このサキュバスである私が、まさかこのような人間の男に、おまんこ
を入れて、元も敏感な角を舐められるなんて。

ルル:ん……シリズ様の……お尻尾……あーん～

シリズ:ひい！ルル！なんでこんな時に……うう……うう……

シリズ:刺激が多すぎるわ……うう……ルル、待ちなさい……尻尾……冷たい
……吸い、すぎ……

シリズ:私の魔力が……うう……うう……

ルル:(咥えながら)はっ……はっ……はっ……シリズ様も……恥ずかしいと
き、ありますね……

シリズ:なんでルルがこんなに早いに……まさか精液と私の魔力を吸収したか
ら……体力を回復したのか……うう……

シリズ:はぁ……(ゴクリ)では、シリズ様のここは、どうですか……

シリズ:あっ……まさか舌を、私の……ハナになんて……

シリズ：後ろの穴は冷たくて、前の穴は熱いなんて……こんな感じ……今まで……

ルル：んふふ、シリズ様のあえぎ声、素敵です！ん……ん……ん……

シリズ：そんな……わ、私の頭が……真っ白になって……

シリズ：ちょっとくらい、角を舐められるだけで……こんな風に舐められことはないわ……まさかそんなに……

シリズ：さらに、ハナがルルの冷たい舌に責められて……

ルル：シリズ様、シリズ様のハナも……あたしの舌を吸い込んでですよ……

シリズ：ちょ、ちょっと……待って……

シリズ：わ、私は高貴なサキュバスなのよ……このような失態が……

シリズ：私だけじゃダメわ、あ……あ、あなたたちも！一緒に……

ルル：うう……そこは、まだ敏感なんです……シリズ様の、お尻尾が……あたしの唾液まだ付いてるのに……おまんこに……

ルル：先までこの男に……されたばかりなのに……どうしてまた……うう……うう……うう……

シリズ：あなた！横になりなさい！ルル、来て。一緒にこの男の上に乗せて。

シリズ：彼は私たち二人に失態させちゃったから、ちゃんと罰を与えないと。まず彼の口を封じなさい！

ルル：はい……シリズ様……うう……うう……ん……ん……

シリズ：サキュバスの誇りを掛けて、私はあなたの精気を最後まで吸い尽くしてやるわ。

シリズ：か、覚悟しなさい！あっ……あっ……うう……うう……

シリズ：5 うう……動きが速い……

ルル：ん……ん……あっ……あたし……

シリズ：4 こんなに激しくて……

ルル：あっ……あっ……

シリズ：3 私はもう……

ルル：あっ……ん……

シリズ：2 とけちゃいそう……

ルル：アソコが……熱い……ん……

シリズ：1 あっ……あっ……うう……うう……

ルル：あっ……あっ……ん……

シリズ：0 一緒に！

シリズとルル：あ——っ！あ——っ！あ——っ！ふぁ……ふぁ……はぁ……

シリズ：あなた……本当に人間なの？先はルルにあんなに出したのに……まだ

おまんこにこんなにいっぱい注ぎ込むなんて……

シリズ：おちんちんがまだ入っているのに、おまんこから精液が溢れ出る。

シリズ：味は、なかなかいいわね、んふふ。

シリズ：あら、射精が終わったらソファに倒れて眠ったなんて、やはりただの人間わね。ルルも眠そうね。

ルル：ふぁ……

シリズ：平気よ、あなたとルルはゆっくり休んでね。今回は今まで一番気持ちいいのよ。

シリズ：私の心音を聞いて、ゆっくり寝なさい。んふふ。

=====

あの……あなた、大丈夫？

あなたはこのままで、私の膝の上で寝落ちしたよ。

起きなさい、もうすぐ店の閉店時間よ。

ずっと私の上で眠っているから、ウェイトレスが私たちをカップルだと思われて、タクシーを呼んでくれたの。

家まで送ってあげるから、ちゃんと歩ける？

さ、私が支えてあげるわ。

んふふ。ほら、一緒に乗りましょう、すぐ外だから。

いやって？もしかして……

シリズとルル：また私たちの世界に、戻りたいの？

んふふ。